みなさんの暮らしと
つながっています。

はまだ議会だより

Vol.64
令和4年（2022年）2月1日発行

主な記事
12月定例会議のポイント、トピックス　2・3
委員会活動レポート…… 10・11
市民対談…… 12～14

12月定例会議

今回はこれがポイント！

子ども医療費助成18歳まで拡充！

12月定例会議では、市長からの３期目の任期となる所信表明から始まり、市長提出議案44件を審議しました。

市長提出議案の**浜田市乳幼児医療費助成条例の一部を改正する条例**は、現在15歳（中学生）までを対象にしている医療費助成について、令和４年４月以降は18歳まで拡充するもので、保護者の経済的負担が軽減されます。**浜田市子育て世代包括支援センター条例**は、令和４年４月に野原町にオープンする子育て世代包括支援センターの設置に伴い、働きながら子育てする方が利用しやすいように、土日も開館するなど設置や管理に関する内容が提案されました。**浜田市空家等対策の推進に関する条例の一部を改正する条例**では、危険が切迫している空き家などに対し、市が緊急安全措置を行った場合、その所有者などに対して費用を請求していますが、特別な事由がある場合は市が負担することとなりました。また、**指定管理者指定議案**では15件の指定管理者の指定についてそれぞれ所管の常任委員会で審査しました。

令和３年度一般会計補正予算（第９号～第11号）では、**子育て世帯への臨時特別給付金事業(７億4,600万円)**として、国の経済対策を受けて、児童手当受給者に対して18歳までの児童ごとに10万円の現金を支給する予算、**福祉避難所等体制整備事業**として、企業版ふるさと納税を活用した、災害時に要配慮者が適切な避難生活を送るための環境整備を図る予算、令和3年7月・8月の大雨、台風の被害を受けた中小企業や個人事業主に対して**被災地域中小企業等事業継続緊急支援事業**などが提案されました。これらの議案は所管委員会での審査を経て、全会一致で可決しました。

議員改選後初の定例会議において、議長を除く21人の全議員が個人一般質問を行い、新たな気持ちで市政について問いただしました。

トピックス

医療費助成の対象者を18歳まで拡充

乳幼児等の健全な育成及び安心して子どもを産み育てることができる環境づくりに取組むため、市独自で医療費助成の対象を「18歳まで」に拡充するための条例改正案を全会一致で可決しました。

助成の方法は、原則医療機関で自己負担額の調整を行い、医療保険の自己負担額の上限が、入院が２千円、外来が千円となり、開始時期は、令和４年４月１日からです。なお、この拡充は県内８市では、浜田市が初です。

令和４年４月から助成拡充	医療区分	自己負担割合	限度額
中学校終了後～18歳年度末	入院	３割	2,000円
	通院		1,000円
	薬局等		0円

新たに拡充された助成内容

問 医療機関や市民への周知はいつになりますか？

答 12月定例会議で可決後、直ちに医師会や医療機関に説明します。市民には広報はまだでの周知と対象者に申請書をお送りします。

問 なぜ、無料にならないのですか？

答 県の制度や現行の中学生への助成を鑑みて自己負担をいただくものです。

問 新たに必要な財源の考え方は？

答 県が小学生への市費負担を助成してもらうことと、結婚子育て交付金を充てます。

問 かかりつけ医の紹介状なしで、休日や夜間に医療センターなどでの受診時の選定療養費はどうなりますか？

答 初診、時間外の選定療養費は助成対象ではありません。

観光関連事業所の存続を願う独自支援策

新型コロナウイルス感染関連経営支援を含む補正予算を全会一致で可決しました。

コロナ禍の影響で事業所収益の落ち込みに回復の兆しが見えず、多くの事業所は売り上げが減少しています。中でも飲食業をはじめ宿泊業や神楽産業はダメージが大きく、事業存続の危機的状況にあります。

観光関連事業所の存続支援のため、市独自で県が行っている給付金に上乗せすることで手厚い支援を行うことができます。

市内で使える飲食・宿泊応援チケット

問 対象となる業種は何ですか？

答 宿泊、旅行、観光バス、タクシー、イベント企画・運営、神楽産業の6業種と県のコロナ対策認証店に認証された飲食店です。

問 支給額は幾らですか？

答 先ほどの6業種は40万円で、認証を受けた飲食店は20万円です。

問 6業種の方々への支援で、県は売り上げ減少30％が対象ですが、浜田市は50％としているのはなぜですか？

答 より減少幅が大きい事業所に対して、手厚い支援となるよう、基準を上げています。

問 その他の事業所への支援は？

答 国が全業種を対象にした支援策を講じるとの情報もあるため、周知に努めます。

駅前周辺整備事業 君市踏切は今？

駅前周辺整備事業は令和4年3月完成を目指して進められてきましたが、JR西日本へ委託する君市踏切移設を含む構内改良工事が、完成年度延伸となりました。

君市踏切を含む市道には歩道もなく、車両のすれ違いができない危険な状況です。早急に整備し、市民の安全確保が求められています。

浜田駅周辺整備事業位置図

問 完成予定がなぜ遅れたのですか？

答 新型コロナウイルスの影響で、対面での会議や出張の制限、現地調査ができず、工程の遅れが生じました。夏場の高温による工期の伸びも考慮しています。

問 委託費が当初の2億7100万円から今回6億1300万円と倍以上に増えたのはなぜですか？

答 主な増額理由は詳細設計と施工計画精査結果で、当初の想定より規模が拡大したことです。他にも電気設備の増加や道路擁壁の整備、管理費の未計上がありました。

問 この金額はもう変動しませんか？

答 現在精査中です。確定後、改めて議案を提出するため、今回の補正予算は一度撤回し、当該工事予算を除いた議案を再度上程しました。また、当初の概算金額変更の報告が遅れたのは、コロナ禍で金額の精査に時間を要したためです。

問 今後の供用開始はいつですか？

答 用地買収や建物移転が完了し、踏切北側の道路工事に着手しています。JR側の工事後、令和5年度の完成を目指します。

議案等の賛否の公開

12月定例会議で賛否が分かれた議案はありませんでした。各議員の賛否や反対理由、陳情審査結果などの詳細は、市議会ホームページをご覧ください。

令和3年12月定例会議　市長提出議案44件（1件撤回）、陳情16件

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

浜田市議会はSDGs（持続可能な開発目標）を推進しています。
質問内容をSDGsの17のゴールで分類しています。

Q&A 市政を問う

一般質問とは

各議員が市民の代表として、市長などに、事務の執行状況や将来の方針などについて、所信や疑問をただすことです。詳しい内容は市議会ホームページでご覧いただけます。

3 すべての人に健康と福祉を

子育て支援・産前産後ケアの充実を！

村武　まゆみ

Q 産前産後の学びについて状況を問う。

A ママパパ学級を実施している。働いている方も参加しやすいように、土曜日や平日夕方にも実施している。

Q 産後ケア事業は育児の不安や産後の疲れが軽減されると喜ばれている。産後ケアの対象期間や回数の拡充ができないか。

A 現在も可能な限り対応しているが、拡充できるよう検討する。

Q 新型コロナウイルス感染症への対応として子どもの世話をするために休業した場合の支援策は？

A 事業主に対して国の賃金助成制度がある。働きながら子育てをする方への支援として、今後感染が拡大した場合、保育所などに周知をしていく。

市民の健康を第一に　感染対策に万全を期せ

芦谷　英夫

Q コロナ感染予防を呼びかけても集団感染が発生したが、その原因と対策は？

A 気が付かないうちの感染、ブレイクスルー感染が発生した。HP、防災防犯メール、チラシなどで呼び掛けており、これを徹底したい。

Q 感染が拡大し集客を伴う行事、事業などが中止されたが新たな対策は？

A 地域や市民の活動が中止されたが、ウイズコロナマニュアルを作成し配布したい。

Q 飲み薬実用化、3回目ワクチン接種、抗原検査などで専門職の拡充と体制づくりが必要では？

A 県や保健所などの関係機関と連携を強化し、疫学調査、濃厚接触者健康観察などを進めたい。

地域包括支援センターのサービス向上を！

足立　豪

Q 地域包括支援センターの相談及び依頼についての現状は？

A 介護保険や権利擁護、施設入所など多岐にわたる相談があり、昨年は3千件を超える相談で、年々増加している。

Q 委託先の社会福祉協議会の準備状況、市民への周知は？

A センター配置予定の有資格者を対象に、月2回の勉強会の開催や、業務の引き継ぎを行っている。今月から各所へ事業委託説明会をする予定。

Q 委託によるさまざまな問題が考えられるが、メリットを生かしたサービス向上に努めてほしい。

A 担当課との連携を密に情報共有し、職員の資質向上や委託先の強みを生かした運営を期待する。

質の高い教育をみんなに

文化財は 地域の宝 市民の誇り 将来の資源

大谷　学

Q 教育振興計画にある文化財の指定登録目標は計画通り進行しているか？

A 現在73件の登録で目標を3件上回り、金城たたら関係古文書などを令和元年度に新たに指定。

Q 改正文化財保護法の趣旨である文化財の総合的な保存や活用及び確実な継承に向けた制度の見直しは？

A 県策定の保存活用大綱にある基本方針「知る・伝える・守る・つなげる・活かす」に基づいて市の保存活用制度を策定する。

Q 少子高齢化などによる文化財の散逸の防止が緊急の課題だが、未発見の未指定文化財の発掘は？

A 地域の関係者からの情報提供を生かしつつ、地域にも出向いて発掘に努めたい。

「郷土資料館建て替え事業」に変更しては

佐々木　豊治

Q 浜田郷土資料館の建て替えである歴史文化保存展示施設整備事業について、所信表明で「一旦立ち止まる」とされた経緯を問う。

A 一つは先般の市長選を受け、反対を主張した方が大きく票を伸ばしたこと。もう一つは総合振興計画審議会の付帯意見として「改めて市民の意見を聞くこと」とあったことを尊重したため。

Q 市民の理解が得やすいように、事業名を「浜田郷土資料館建て替え事業」に変更したらどうか。

A これまで何回か名称を変えてきた。事業名を変更し、郷土資料館建て替え事業と言う方が確かに分かりやすいと思うので、事業名については少し検討したい。

ヤングケアラーを孤立させない早急な支援を

小川　稔宏

Q 相談の窓口や担当課はどこになるのか問う。

A 子育て支援課が要保護児童対策協議会の事務局であり、子ども全般の一元的窓口を担っている。

Q 支援マニュアルやリーフレット、チラシなどでの認知度向上に向けた普及・啓発について問う。

A 広報はまだや市のホームページで情報提供を考えたい。厚生労働省HPへのリンクはできるので周知の迅速化を図りたい。チラシについては福祉部局と相談したい。

Q 実態把握の方法及び調査票・アンケートの実施についての考えを問う。

A 教員などによる観察や対話で把握に努める。調査票は子どもたちがヤングケアラーの内容を把握できた上で検討したい。

安全な水とトイレを世界中に

上水道の実態と下水道計画の整合性は

永見　利久

Q 合併浄化槽普及率は。

A 昨年度末の合併浄化槽普及率は23・1％で、公共下水道などの集合処理を含めた全体の汚水処理普及率は、48・5％である。

Q 汚水処理普及率の向上の取組について問う。

A 市街地下水道整備は優先整備区域で、事業着手し供用開始を目指している。また、合併浄化槽は単独浄化槽からの転換に係る配管工事費など補助対象の拡充を行い、普及率向上に努めている。

Q 市街地下水道の整備計画において配水量の確保は十分か。

A 市街地下水道整備区域は、黒川、美川水源区域で、過去の配水実績と現在の配水量の関係からも上水道で対応可能な能力である。

8 働きがいも経済成長も

コロナ禍における事業所支援とは

沖田　真治

Q コロナ禍の影響により市内事業者は依然、厳しい状況にあると考えるが市としての認識は？

A 昨年「新型コロナウイルス感染症対応資金」を利用された多くの事業所は、据え置き期間を3年とされ、令和5年度中に返済開始となる事業所が多い。今後は多くの事業所において資金繰りが課題となることが予想され、引き続き厳しい状況にあると認識している。

Q 売り上げが落ち込んでいる事業所に対し、昨年度と同様に国や県の支援策を補完するため、独自の支援策を行う考えは？

A 昨年度より国・県の支援策を補完する支援を独自に行ってきた。今後も国・県を補完する必要な支援策を検討する。

地域経済の滞留と循環の促進を

三浦　大紀

Q 地域経済の縮小に対して、資源（お金）の循環を促す対策が必要では。

A 重要な視点。BUY浜田運動はその一環で取組んでいるもの。

Q 自給率を高めることも重要。同運動に絡めて、地域ニーズがある商材・サービスの開発を支援する制度を設けてはどうか。

A 消費動向を調査の上、関係者にも意見を伺いながら、予算化を検討する。

Q 地域通貨の導入も効果的では。地域内における購買促進としてだけでなく、地域活動に対するポイント付与制度などにも展開して活用もできる。

A 費用や運営主体などの課題を踏まえ、改めて検討する。市民一丸となって、この地域でお金を循環させていく必要がある。

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

技術職の人材育成を図る環境整備を

岡本　正友

Q 市職員の人材育成において、土木・建築の技術職員を取り巻く環境は厳しい状況にある。今後の人材育成の方向性は？

A 頻発する自然災害など突発事案への対応、複雑化・高度化する行政需要への対応や職員数の減少など組織を取り巻く状況は変化している。対応することができる「人材育成」「職場環境の整備」「適正配置と処遇」といった各要素バランスの取れた「人材のマネジメント」について考えていく。

CADシステム

水産業振興について市長の覚悟を問う。

牛尾　昭

Q 底びき漁船の船齢は古い。新船建造をしないと、ふるさと納税でこの8年間で100億円のうち7割を稼いでいる水産品の確保が難しいと思うが。

A 1カ統が国のもうかる漁業創設支援事業の実施を目指している。

Q 残りの3カ統を手当てしなければ大変である。そこで証拠に基づく視点を入れた牛尾私案を提案する。3カ統を建造すると、30億円掛かるが、24年間で210億円のふるさと寄附が見込める。市民サービスに約115億円回せる。建造費用の漁業者負担を月100万円とし、残る21億円を市単独でも支援すべき。

A 国・県の支援を仰ぎたい。なければ議会の同意が必要である。

住み続けられるまちづくりを

周布橋の早期復旧を

肥後　孝俊

Q 周布橋仮設歩道橋工事の進捗は？

A 令和４年３月末までに仮設歩道橋の完成を目指している。

Q 夜間の安全性確保のため、照明設備は設置されるのか？

A 発注はこれからだが、全体計画の中に照明設置工事を盛り込んでいる。

Q 周布橋架け替えの現時点での計画を問う。

A 地元から要望のある歩道を確保し、安全性の高い橋梁を計画し、島根県や国と予算確保の協議を現在進めている。令和４年度については、詳細設計や既存橋梁の撤去を行いたいと考えており、完成までの期間を５年以内としていたが、できるだけ早期の完成となるよう進める。

ふるさと体験村について

串﨑　利行

Q 指定管理者に、地元のまちづくり組織を指名する予定と聞くが理由は？

A 営利を目的とした施設としては難しく、民間事業者には期待ができないと考え、地元まちづくり組織への指名を検討している。

Q 市民の活動や交流に必要な施設、そうした自治法に基づいた本来の公の施設を目指すべきではないか。見解を問う。

A 公の施設の本来の趣旨に立ち返って、営利を目的としたものでなく、自然豊かな弥栄における農山村文化を通じた田舎暮らしの魅力発信の拠点とし、市民の活動や交流を核とした「市民のために必要な施設」を目指すことから始めるべきと考えている。

執行部は県の管理河川の認識が甘いのでは

田畑　敬二

Q ８月の災害に係る人事異動が行われ、特定の部署が大変負担になっていると感じるが？

A 人事異動は組織全体を見ながら、職員の配置を考えて行っている。

Q ８月の台風及び大雨災害で、周布地区などで警戒レベル４を発令した。避難所におけるコロナ禍での対応は？

A 避難所の第三中学校では、コロナ対策を十分考慮して、マスク、アルコール消毒などを準備し、万全の態勢を取った。

Q 周布川の堤防をかさ上げしなければ、下流の住民が災害に遭うのでは？

A 直近３年間で３回危険水位を超えた。この状況を県に相談し、堆積土砂の除去、樹木の伐採にも取組む。

「地区まちづくり計画」の必要性を問う。

村木　勝也

Q 「協働」と「まちづくり」の定義は？

A 「協働」は、市民等及び市が、相手の立場や違いを尊重し、一人一人が当事者意識を持ち、責任や役割分担を明確にし、同じ目的のために共に考え、行動すること。「まちづくり」は、市民等が地域の活動に参画し、自分たちが暮らす地域をより住みよくすること。

Q 「協働のまちづくり」を進める上で「地区まちづくり計画」の位置付けは？

A 地域の目指す将来像や地域課題をお互いに出し合い、取りまとめ、共有し、今後どのように取組んでいくのかを示したものであり、より良い地域づくりを行っていくための指針である。

11 住み続けられるまちづくりを

鉄道遺産や日本遺産のブラッシュアップを！

布施　賢司

Q 広浜鉄道「今福線」、鉄道遺産活用の取組は。

A ツアーなどを支援して見学者を増やし、地域が自主運営できる活用策を地域と一緒に検討する。

Q 日本遺産の認定を受けている北前船寄港地「外ノ浦」と「石見神楽」。取組が甘いと6年経過後、認定継続に赤信号となるが、今後の取組は。

A 日和山方角石などへの案内看板設置を検討し、遺構を保存・整備するため、教育委員会や都市建設部と協議を進める。

夜神楽週末公演は定員枠(50席)の拡大に向け、協議を進めていく。2025年開催予定の大阪・関西万博は、「石見神楽」の認知度向上を図る取組として、日本国際博覧会協会へ働き掛けていく。

若者の意見を施策に反映させることが重要！

西田　清久

Q 特に若い世代の意見を施策に反映させるために「住んで良かったアンケート」を、広報はまだを活用して全戸に実施してみてはどうか。

A 策定中の「浜田市協働のまちづくり推進計画」の基礎資料として、市民1500人やまちづくり活動団体、町内会などを対象として本年10月に実施している。

Q 市内全戸と双方向でつながることが、協働のまちづくりのスタート。特に若者の考えや意見は重要。後納郵便方式で実施すれば、少しでも返信しやすいと考えるが。

A 多くの市民の意見を聴くことは重要。アンケートの目的によって手法はいろいろあると思うが、しっかり検討したい。

地域に活力を与える石見神楽の振興を!

川神　裕司

Q 平成24年に浜田市石見神楽伝承施設調査検討事業が実施され、伝承施設は設置が望ましいとの報告がされた。市長が「歴史文化保存展示施設」の凍結を表明した今、「石見神楽伝承拠点施設」に軸足を置いた整備を検討するべきではないか。

A 石見神楽が日本遺産として認定された際、浜田は改めて神楽のメッカであると感じた。今後上演のみならず、神楽情報の発信、神楽産業振興のための拠点施設の検討は行いたい。

Q 石見神楽を支える神楽産業振興を強化しては。

A 神楽産業は郷土が誇る伝統工芸で、技術継承や後継者支援は重要課題。産業技術について市の文化財指定を協議したい。

12 つくる責任つかう責任

放課後児童クラブの安全について

川上　幾雄

Q 放課後児童クラブへ相当の距離を歩いて移動しなければならないものがある。どのように把握し、受け止めているか。

A 1キロ程度離れているクラブも3カ所あり、移動時の安全には気を付けているが、現在の場所から学校内・敷地内への設置などを検討しなければならない。

Q 学校敷地内や近くであれ、建てる前に空いたスペース、使わない施設、古い施設があれば直して使うことを検討する。それが本来やるべきことではないか。

A 建てるということだけでなく、空いたスペースなどを考えてどちらの方が有効的かどうかを検討して、安全で安心して通える環境を整備する。

気候変動に具体的な対策を

温暖化対策につながる積極的な情報発信を

Q ごみカレンダーがスマートフォンなどで確認できるようになると聞いているが、進捗状況を問う。

A ごみ分別アプリは8月に業者を決定し、データの設定作業の後、1月中に配信を行う。

Q 地球温暖化対策は市民に具体的な取組を示し、情報発信が重要である。このアプリを活用した発信について問う。

A 情報を自動的に発信するプッシュ通知機能も活用する。

Q 市民の行動を後押しするため、温暖化防止につながる行動にポイントを付与する考えを問う。

A ごみ分別アプリにはオプションでクイズやクーポン発行機能もある。環境省の動向も踏まえ検討していく。

柳楽　真智子

陸の豊かさも守ろう

自然環境を生かした魅力ある地域づくりを

Q 産業廃棄物13トンを旭に放棄し逮捕との事案が発生。残土及び廃棄物の処理など把握しているか。

A 民間事業者による小規模な開発行為は把握できていない。

Q 国は、野生鳥獣の捕獲強化にシカ、イノシシの年間140万頭捕獲を目指す「集中捕獲キャンペーン」を始めた。浜田市の効果ある対策は？

A 新規狩猟免許取得者や捕獲檻の見守りへの補助、新開発のわなの配布などで対応する。

Q 森林環境譲与税を活用し、災害防止のためにも放置された森林整備に力を入れるべきでは？

A 森林環境譲与税を有効に活用し、森林環境の整備や地域林業の活性化に引き続き取組む。

上野　茂

マニフェスト大賞優秀躍進賞授賞式と行政視察

はまだ議会ニュース まるよみ

前号で、はまだ市民一日議会の取組が第16回マニフェスト大賞で優秀躍進賞を受賞したことを報告しました。今回は授賞式の様子とその後の動きについて報告します。

今回のマニフェスト大賞では応募総数2,730件の中で、議会改革を中心に大きく躍進したことを評価される「優秀躍進賞」を受賞しました。マニフェスト研究所の全国議会改革度ランキングにおいて、2017年度ランキング224位から昨年87位までの飛躍に対しても大きな評価を頂きました。

受賞に伴う受賞事例研修会はZoomで出席し、はまだ市民一日議会の成果と今後の展望をしっかりと全国に伝えました。そしてその後の授賞式に参加し、受賞コメントを述べました。

また、奥出雲町議会の広報公聴常任委員会から、はまだ市民一日議会について視察の依頼がありました。議会広報広聴委員会の三浦委員長から、はまだ市民一日議会の良かった点や課題も含め、当市議会の他の広報広聴活動と併せて紹介しました。議会の良い取組がさまざまなところに広がるとすてきですね。

レポート

総務文教委員会

取組課題のテーマを選定

前任期の2年間、当委員会では、浜田市における幼児教育環境について取り上げ、市長に政策提言を行いました。そのうち、公立幼稚園における預かり保育の前倒しが実現しました。

新しい顔ぶれになりましたが、このたびも、新たなテーマを設けて取組むこととなりました。当委員会は所管が広く、委員からの提案も多岐にわたります。

ICTを活用した教育環境の整備、高校と大学の連携強化、市民参画の推進、相乗りタクシー事業の推進、学校での居場所づくり、定住促進のための要件整理、雇用の機会均等や多様な働き方を推進するための条例改正、まちづくりセンターのあり方などの提案がありました。

各委員が提案理由を述べ、他委員の問題意識に対する意見なども加え議論をしています。社会状況や浜田市の取組状況を踏まえ、議会がリードして取組もうというものを選定します。今後も状況を報告していきます。

議会運営委員会

人権をテーマに議員研修会を開催

議員の資質向上を図ることを目的とした議員研修会を当委員会主催で実施しています。12月20日に「性的マイノリティ及びハラスメントについて」と題した研修会を実施しました。このテーマは、昨年7月に実施したはまだ市民一日議会で「人権教育としての性教育の重要性」というテーマでの発言を受け、まずは議員間で意識醸成を図るために行いました。議員からは「曖昧な認識がクリアになり、非常に有意義であった」との感想もありました。

多様性を認め合い、お互いを尊重できる町を目指し、議会も取組んでいきます。

福祉環境委員会

取組課題のテーマ設定や今後の進め方を協議

福祉環境委員会では新たなメンバーで取組課題のテーマ設定や今後の進め方についての協議を始めました。提言や条例ありきでなく、委員会としての現状や課題に対する共通認識と合意形成を重視し進めます。12月9日の委員会では２人の委員から取組課題について３つの提案があり意見交換を行いました。

1．環境については、地球温暖化対策の取組としてごみの減量化やごみの出し方、使い捨て容器やペットプラの削減、海岸の漂着ごみなどの調査・研究の提案があり、エコクリーンセンター改修に伴い、燃やせない分を民間事業者や他市に持っていく話があり賛同する意見がありました。

2．障がい者支援については、「浜田市障がいのある人もない人も共に生きることができるまちづくり条例」を制定していますが、効果や支援状況が表に出ておらず、必要な支援の研究が提案されました。複雑化する社会で障がいのある子どもたちが、この町で生活していけるための支援の必要性や障がい者就労の検討の意見がありました。

3．健康寿命の延伸はかねてからの大きな課題です。浜田市は低く、取組むべき課題との提案には、議会も踏み込み、がん検診の受診率向上や健康寿命延伸につなげていきたいです。アプローチの仕方で文化スポーツにおける掛け算で、健康寿命延伸や介護保険料引き下げにもつながり興味があるなどの意見がありました。

委員会での議論を踏まえ各委員が政策テーマ、提案の趣旨、背景・課題・問題などを提出し、今後の議論を通してテーマの絞り込みを進めます。

委員会活動

議会広報広聴委員会

活動方針を共有

初回の委員会では、委員長から２年間の活動方針が示されました。それを基に、近年の新たな取組（はまだ市民一日議会や地域協議会との意見交換会など）を継続すること、それらの活動を通じて見えてきた課題を整理しながら、より機能する広報広聴活動を目指していくことを全委員で確認しました。

また、議会への関心を高めてもらいたいとの思いから、主権者教育についても取組みたいと考えています。加えて、皆さんに議会活動の情報を分かりやすくお伝えするために、HPのリニューアル、スマホ対応も検討することとなりました。

前任期では「市民の声を第一に～聴くことからはじめよう～」というスローガンを掲げていました。今期は「より議会を身近に～双方向の関係構築～」としました。

議会改革推進特別委員会

３つの項目から検討を開始

議会改革推進特別委員会では前期の議員定数等議会改革特別委員会から７項目の議会改革に関する引き継ぎ検討項目があります。現時点で新たな検討項目はありませんが、随時追加しながら、７項目の中から優先順位を付けて検討していくことにしています。

次回の委員会からは、大規模災害や新型感染症などが発生した場合でも議会機能を停止させないための「議会BCP（事業継続計画）の作成」、「委員会代表質問」、「政策サポーター制度」の３つの項目について当面検討します。議会改革はエンドレスです。今後も先進的な取組を注視し、議会機能の充実と市民参加と開かれた議会を目指し活動を進めていきます。

産業建設委員会

浜田市ふるさと体験村を現地視察

産業建設委員会は改選後初めての活動として、弥栄町三里地内の「浜田市ふるさと体験村施設」を視察しました。

この施設は、関連する道路などを含め総額43億円の投資がなされましたが現在休止状態で、草刈り、清掃程度の維持点検を弥栄支所が担っています。施設は管理棟、2棟の古民家、5棟のログハウス、交流促進施設など22の建物・設備で構成されていて、休止期間も長くなり傷みや不良箇所が発生しているのではないか、どの程度であるかを、関連する弥栄支所担当課及び都市建設部建築住宅課職員の説明を受けながら、委員会として目視確認しました。

結果は、すでに廃止・撤去された施設、存在するが使用に適さない施設、使用は可能だが手を入れなければならない施設、電気設備・水回りの老朽化など個別に大きな問題が見つかり「百聞は一見に如かず」でした。

施設を活用しての再開には、個別施設の使用適否の詳細確認、多分な修繕、設備更新が必要であることを受け止める結果となりました。

若者発

市民と学生の交流から生まれる持続可能なまちづくり

島根県立大学
寺迫　麟さん
古石　葵さん
草刈　優斗さん

第5回 市民対談

第5回目の市民対談として、島根県立大学の学生3人にお話を伺いました。皆さんそれぞれに思いを持って浜田に来られています。
（インタビュアー：肥後　孝俊、大谷　学）

まちづくりやフィールドワークに魅力を感じて

――皆さん、浜田の地へようこそいらっしゃいました。さまざまな大学がある中で、どんなことを学びたいと思って、この島根県立大学を選ばれたのですか？

寺迫　以前からまちづくりに興味がありました。今も地元岡山で不動産会社と連携して地域づくり活動をしています。将来的にもまちづくりに関わっていきたいと思っていたところ、島根県立大学に「地域政策学部」が新設されることをチラシで見つけ、関心を持ちました。国際関係学部があることで国際交流にもつながりますし、イイ刺激になる環境があると思いました。

古石　高校時代にボランティア活動をしていて、地域の課題解決に興味がありました。フィールドワークが活発にあることや人と向き合う現場が好きなので、地域に開かれた大学というのをホームページで見て「この大学にしよう！」と決めました。

草刈　当初は警察官志望で法学部のある大学を目指していたのですが、「総合政策学部」という学部に興味を持ちました。調べてみると、日本で2カ所しかないんですね。さまざまな科目が勉強できて2・3年生になるとより専門的なことを学べると分かりました。国際関係プログラムもあり「自分の知らない世界が見えるかもしれない」と思って、人を助けるつながりで島根県立大学を選びました。

一人一人が輝いて活躍できる町

――浜田はどんな町ですか？皆さんの視点から感じる浜田の魅力もぜひ教えてください。

草刈　人が温かいことと距離感が近いことですね。石州瓦、石見神楽や石州半紙など伝統工芸・芸能が大事にされている

草刈　優斗（くさかり　まさと）さん
北海道士別市出身。
総合政策学部 総合政策学科3年。
赤坂ゼミに所属。

古石　葵（こいし　あおい）さん
大阪府岸和田市出身。
総合政策学部 総合政策学科2年。
学生団体KAKEHASHIに所属。

寺迫　麟（てらさこ　りん）さん
岡山県岡山市出身。
地域政策学部 地域政策学科 地域づくりコース1年。
しまね防犯サークルSCOTに所属。

ゼミの会議で進行している様子

まちづくりセンターでの学習支援活動の様子

大学生×地域、里山づくりの様子

ことも魅力に感じています。塾の生徒やアルバイト先の方々から地元愛の強さを感じました。

寺迫　ふるさとの瀬戸内海とは違う、日本海側の透けて見えるきれいな海は魅力です。今、地域連携カフェマルシェの運営に携わっていて感じるんですが、大学の活動に市民の方々がとても協力的なんです。やりたいことができる町だと思いました。

古石　国府や波子の海でサーフィンやボディーボードをしているんですが、海がきれいですね。自然が身近にあるのは魅力の一つだと思います。地域の方々には、大学の活動を支援していただいていますが、人と人との距離感が近いと感じます。都会だと大勢の中の一人に埋もれてしまいますが、浜田だと輝ける気がします。

若者の挑戦を応援してほしい

――皆さん、それぞれに地域活動に関わっておられますよね。浜田市に期待したいことはありますか？

古石　性教育、ＬＧＢＴなどに関心を持って活動しています。多くの人がそうした部分に関心がいくことで、生きやすい町になるのではと思っています。自分自身も知識を深めて、生きづらさの解消を目指す活動をしたいので、支援や応援をいただけるとうれしいです。

草刈　現在、アルバイトで塾の講師をしていて感じていることがあります。自習スペースや地域交流スペースの必要性で、それをつくりたいと思っています。中央図書館の使用時間が夜７時までと使いづらいという高校生の声もあるんです。大学生もメディアセンターしか自習スペースがありません。隠岐の海士町のような学生同士はもちろん、市民などとも交流できるようなスペースが浜田駅の周辺にあったら良いなと思います。ＨＡＭＡＤＡ教育魅力化コンソーシアムの役員会の場でも提案しました。高大連携プロジェクトも盛り上げてほしいです。

寺迫　やりたいことを口に出していない人が多いと感じています。もっといろいろな人がいろいろなことに挑戦していける町になると良いと思います。若者会議に参加させていただきましたが、挑戦したいという気持ちを応援する中間支援組織をつくろうというアイデアを共有しました。ぜひ応援してほしいです。思いのある人の意見を拾い上げるために、気軽に会議などができる場もあると良いですね。

――編集後記――

ありがとうございました。地域づくりなどの明確な目的を持ち、「行ける大学」ではなく「行きたい大学」として島根県立大学に魅力を感じ、遠くは北海道など全国各地から集っていることに驚きました。魅力のある大学として学生から高い評価を受ける大学が浜田にあることに改めて一市民として誇りに感じました。大学生がミーティングの場など気軽に時間に制限なく、高校生や市民などとの交流の場を求めているとも分かりました。大学を生かしたまちづくりの視点からも議会でも大事に取り扱いたいと感じました。

（肥後、大谷）

はまだ議会だより 読者アンケート

読者アンケートへのご協力、ありがとうございます。前々号のVol.62に寄せられたご意見・ご要望に対する回答を掲載します。

※紙面の都合上、ご意見・ご要望は要約して掲載しています。

駅前の人通りがなくなったようである。駅前ロータリーが良くなったのに活気がなくて寂しい。人々が集うコミュニティの場が必要ではないか。

コロナ禍において停滞している高齢者の方々のサロンなどにおける活動促進を図る必要があると考えています。また、ご指摘の駅前エリアは、中心市街地として浜田市において重要な地域との認識です。同地域においては、若者からも居場所を求める声を聴いています。駅前地域のあり方については、まちづくりの視点を入れて協議していきたいと思います。（総務文教委員会）

町内会長を引き受けた人は定期的に講習を受けて勉強しなければならないような仕組みをつくってほしい。

一律の講習実施は難しいと思いますが、地域の実情を踏まえ、実施できる仕組みがあれば良いと思います。なお、講習という形だけではなく、まちづくりへの意識醸成を積極的に図る必要があると思います。（総務文教委員会）

まちづくりセンターが「まちづくりの拠点」になるには、時間や職員育成が必要。社会教育に重点を置いてほしい。

ご指摘のように時間も必要と思われますが、まちづくりセンターを中心に、人材育成をはじめ、社会教育を重点としたまちづくりの拠点として機能するよう、議会としても働き掛けていきます。（総務文教委員会）

市民の考え、暮らしぶりを知るためにどんどん地域に出向いてほしい。

頂いたご意見は真摯に受け止め、前向きに取組みます。（議会運営委員会）

「議会だより」は見やすく、内容も充実している。

ありがとうございます。引き続きより良い紙面になるよう努めます。（議会広報広聴委員会）

前号Vol.63で頂いたご意見・ご要望と回答について、締切日と議会日程の関係で掲載できませんでした。次号にて掲載させていただきます。なお、過去の回答はHPで公開しています。

はまだ議会だよりVol.64　読者アンケート

お住まい	年齢
	歳代

Q１　大学のある町として、どのような取組が必要だと思いますか？

Q２　自由意見（浜田市議会へのご意見やご要望などをお聞かせください）

最寄りのまちづくりセンターの回収箱へご投函ください。ウェブでの回答はこちらから。
集計の都合がありますので、２月末日までにご回答をお願いします。

キリトリ

3月定例会議の予定

２月24日（木）から開会です。
会派代表質問は２月25日(金)、
個人一般質問は２月28日（月）
から３月２日（水）までです。
ぜひ傍聴にお越しください。

はまだ議会だより mini も見てね

1月1日の新年第１号はご覧いただけましたでしょうか。浜田市議会HPにウェブ版として掲載しています。こちらのQRコードからぜひご覧ください。
次号は3月1日に発行予定です。毎号、季節感に合わせてベースの色を考えていますが、配色はSDGsの17の色から取っています。並べてみるととてもカラフルですよ♪

表紙について

絵本《雨ニモマケズ》より、染色家・アーティストの柚木沙弥郎（ゆのきさみろう）さんが手掛けられた１枚。さて、どの一節に合わせて描かれたものでしょう。2月11日（金）から3月27日（日）まで、柚木さんの作品展「柚木沙弥郎の世界」が、浜田市世界こども美術館で開催されます。表紙の作品もやってきます。99歳になっても精力的に創作活動を続けられている柚木さんの世界をぜひお楽しみに。
表紙：《雨ニモマケズ》原画 2016年 公益財団法人泉美術館 蔵

あとがき

皆さま、新年あけましておめでとうございます。
令和も４年目を迎えました。さまざまな物事が大きく変わり続ける昨今。議会活動も、新たなやり方を積極的に研究し、実行していくことが求められています。
議会だよりを編集する議会広報広聴委員会は、昨年10月来、新人議員３人を迎え、10人の新たな顔ぶれで活動しています。当委員会の新しいスローガンは、「議会を〝より〟身近に」。市民の方々と議会、一層の双方向の関係構築を目指します。引き続きご注目ください。
議会は、皆さんの暮らしとつながっています。
（記　三浦　大紀）

編集委員

委員長　三浦　大紀
副委員長　村武まゆみ
委員　肥後　孝俊
村木　勝也
大谷　学
沖田　真治
川上　幾雄
小川　稔宏
上野　茂
神川　裕司

★この議会だよりは1部あたり46・86円（税込）でできています。

発行：浜田市議会　編集：議会広報広聴委員会　〒697-8501　島根県浜田市殿町１番地 TEL(0855)25-9800 FAX(0855)22-6765